

テーマパーク ガマ洞窟・ガマランド 茨城県つくば市

霊峰、筑波山の山麓にガマを祀る 珍スポット「ガマランド」あり

茨城県のシンボルで「西に富士、東に筑波」と称される筑波山。その山腹にあるのが江戸時代に傷薬の素として重宝されたガマを祀る、謎すぎるテーマパーク、「ガマランド」。看板アトラクションのガマ洞窟は、ちょっとした恐怖体験でした。

「サーサお立ち会い。ご用とお急ぎでない方はゆっくりと聞いておいで」。こんな呼び込みで始まる筑波山名物、ガマの油売りの口上。ガマとはニホンヒキガエルの俗称で、ガマの油の歴史は江戸時代までさかのぼる。筑波山中禅寺の住職だった光誉上人は大坂の陣に徳川方として従軍した際に、ガマの油を原料にした傷薬を持参。その効果が評判を呼び、広く世間に知れ渡った。これが、のちに筑波山土産として売店などで販売されるようになる。

ガマランド全景。巨大なガマ明神は強化プラスチック製で1980年に建立された。



ガマ洞窟の入り口。中の様子は入ってみてのお楽しみ。

目に入った。一見するとドライブインだが、建物の上には巨大なガマ像。売店の脇には「ガマ洞窟」の入り口とある。

運営するのは三井谷観光という会社。8年前に「なくなった主人の跡を継いで社長を務める桜井雅子さんに話を聞いた。「筑波山なのに名物のガマに関する施設がないのはおかしい」と言って先々代の桜井平左衛門という人が建てたの。40年くらい前かしらねえ」

売店にはガマの油を始め、陶

器の置き物やせんべいなど、さまざまなガマグッツが並ぶ。

さらに、近くの池には本物のガマも生息しているそう。夜行性ゆえに明るいうちは出てこないが、昨年一匹捕まえて館内で展示したという。

「ガマのおでこには穴が開いていて脅かすと猛毒の白い液体が出てくるらしいのよ。江戸時代の人はその原料にして傷薬としての軟膏を作ったのね。だから、厳密には油じゃない」

訪れる人が減ったため、食堂は休業中で乗り物やジャンボ滑り台なども稼働していない。しかし、看板アトラクションの「ガマ洞窟」は健在だ。「無事に通り抜けられれば、どんな災難も免れるわよ」という桜井さんの言葉を背に、いざ突入。

ネタバレになるので内部の詳細は書かないが、3度目のチャレンジでようやく通り抜けに成功。正直、怖かった。桜井さんに報告すると「わざと迷路のようにしたのは、子どもたちに自分で答えを探す力を身に付けてほしいから」とのことだった。

毎年8月上旬には筑波山門前で「筑波山ガマまつり」が盛大に開催され、県外からも多くの観光客が訪れる。ガマと光誉上人を供養する神事やガマの油売

DATA

ガマ洞窟・ガマランド

住所 ●茨城県つくば市筑波つつじヶ丘
電話 ●029-866-0658 (筑波ニュー三井谷)
営業時間 ●9:00~17:00 (冬期は~16:00)
定休日 ●2月、9月、12月の木曜 (天候不順の場合休業)
入場料 ●無料 (ガマ洞窟500円・税込)



1 売店に立つオーナーの桜井雅子さん。ガマの油「陣中油」(750円)は火傷やあかぎれに効くとされる。2 一番の売れ筋は「がませんべい」(大・720円、小・470円)。(すべて税別)



り口上の実演などを見学できる絶好のチャンスだ。

「リニューアルしてきれいにしたいのはやまやまだけど、先立つものがないからねえ」と笑う桜井さん。いやいや、そこはひとつ、ガマの油パワーで奮起して江戸時代から続くガマの物語を伝え続けてくださいよ。

(石原たまき)